

吉野復興大臣浪江町棚塩産業団地起工式後
ぶら下がり記者会見録

(平成30年4月15日(火) 11:55-12:00 於) 浪江町棚塩産業団地)

1. 質疑応答

(問) 吉野復興大臣にまずお聞きします。

新しい設備の、今日は起工ということで、産業の誘致というところの期待もできると思うんですけども、国としてですね、こうした新たな設備をつくることで、どういうふうに企業誘致をするのか、あるいは後押ししたいのかということと、あと、この設備をどういう、浪江町の中でどういうものにしていきたいというのをまずお聞かせいただけますか。

(吉野大臣) 福島イノベーション・コースト構想は、改正福島復興再生特別措置法にきちんと位置付けされた、正に切り札でございます。

その切り札であるロボットテストフィールド等々、ロボット産業の育成が正に今日、この地で行われていくということで、本当にうれしく思っております。

また、世界最大の水素製造装置、これも福島新エネ構想の中で位置付けをしておるものでございます。そういう福島復興の切り札が、この棚塩団地で行われていくというところが、今日の意義ある起工式なのかな、と感じているところです。

そして、企業誘致ですけども、立地補助金等々、豊富なメニューをそろえておりますので、多くの企業に棚塩産業団地に来ていただいて、雇用を生んでほしい。

実は、経団連、そして日本商工会議所、また同友会、そして関西の経済界等々にも行って、企業誘致のお話しを行ってきたところなので、そういう大きな企業が来てくれることを期待しております。

(問) ありがとうございます。

馬場町長にも一点お聞かせいただきたいんですけども、政府は、燃料自動車ですね、25年までに20万台普及させたいという目標も掲げていて、かなり将来性がある、水素というのはあると思うんです。

水素というのをどういうふうに感じておられて、どういう期待感を今持っておられるのでしょうか。

(馬場町長) 世界規模の、水素製造ということでありますので、是非ここは、福島県の復興はもとより、浪江町の、水素製造の発信の基地だということを打ち出していきたいということです。

そこで、普及するためには、2020年にオリンピックがござい

ます。そこで水素燃料で走らせるというような考え方もあるようですので、それを弾みにしながらね、水素エネルギーをつかった車をどんどん走らせていただきたいなと、このように考えております。

(問) 浪江の復興という意味でも今日は大きな一歩だったと、そういうことですか。

(馬場町長) そうですね。浪江町にとっては復興の、いわゆる新しい産業の第一歩であるなというような感じがいたしました。

(問) 大臣にお伺いします。

今、誘致の関係で、できるだけ大きな企業にというふうなお話もありましたけれども、具体的にどういうふうな企業に来てほしいのか。何社ぐらい誘致ができればいいなとお考えなのか、教えてください。

(吉野大臣) ここは産業団地でございますので、浪江町さんの方でいろいろ考えておりますので、我々としては立地補助金等というものをきちんと整備し、多くの会社に来てくれた場合の生活環境の整備を、いわゆる受皿をきちんと整備していくのが復興庁の仕事でございます。どういう会社、これはもう地元の馬場町長さんが選んでいただきたい、と考えています。

ただ、我々の復興庁の仕事は、その受皿を、環境整備、多くの企業が来ても、例えば学校の心配もない、生活の心配もないというところの整備を復興庁として進めていきたい、このように考えています。

(問) ありがとうございます。

では、町長に、どういう企業に来ていただきたいとお考えですか。

(馬場町長) そうですね、まず研究者とか研究施設、そういうものが沢山できるような感じがいたします。

東芝さんがね、今、水素の場合は高圧ガス、それから危険物の取扱い、そういう方々のために資格を取得するためにいろいろ設備をこれから、何ていいますか、御案内するというような形になっていきますので、そういう方々もいっぱい取り込んで、やっぱりあそこはそういう資格が取れるところだというような形で、それに関連する企業が配置できればというふうには思っております。

(問) 町長にお伺いしますが、水素製造施設の概要みたいなものは固まっているのでしょうか。例えば、製造能力とか。

(馬場町長) それは産業振興課の担当の方からお聞きしていただければというふうに思います。

(吉野大臣) ありがとうございます。

(以 上)